

常新新聞

昭和二十一年十一月二十二日

定価 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 送料 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 電話 六三〇番

常 磐 論 壇

景氣の根柢 (13)

經濟學博士 太田正孝氏述

嘗て故田尻稻次郎博士は日本の山林は三厘の値打もなると洒落た事があります。事實に於て悲しむべき状態になつて居るのであります。そんな具合で無論現今は紙の原料たる木材パルプに致しまして、天龍川の沿岸は木材が多いと云つて製紙工場、造り、木曾川の沿岸九州玖磨川の沿岸にも製紙工場を作り皆木をドン／＼伐り出してモウ少くなつた北海道の分まで伐出して今で

は樺太に手を着けて居ります。是も二十年の後には今の状態から言へば盡きる時代があります。斯様に食へる物も着る物も、住む家も既に外國に頼らなければやつて行かれないと云ふ我國の經濟状態でございます。併し自分だけで景氣を直して行くことの出来ない國であります。景氣の根柢に就てはお互土を眺めお互天を眺めるばかりである天を眺め地を眺めて日本國內だけで景氣を作つて行くことが出来るかと云ふとさうでない他の國の殊に亞米利加とか支那とか云ふ國の經濟狀況が非常な強さを有つて居りますから、之に動かされなければならぬ。斯う云ふ風に考へて見ますと太陽の黒點と云ふ事柄に依つて十年目に景氣が来る、云ふことはまるきり當てにならないことでありませぬ。我國の景氣と云ふものは過去の例に依りますれば戦争と云ふ突發事件に依つて起つたことと他の國の關係が加はつて居ると云ふことを考へなければならませぬ。

(つづく)

着ナフトール

着尺モスリン
模様 銘仙
平町 龜田屋
電話五七

梅毒

婦人病
皮膚病
專門 院病村松

腸胃

十二指
腸虫病
專門 院病村松

町南平

大賣出し

五圓五十錢ヨリ
銘仙 モスリン着尺
御祝儀物數々
尙ほ 福助足袋製
福助を今回特に當地代理の御便宜に供し申候世界に冠たる優良品を多量に製産する 福助足袋

會社製品
黒朱子……四十七錢
白キヤラコ……三十五錢
絹天足袋……四十七錢
平町三丁目
中野吳服店
(電話六十七番)

親切 友生 命

住友生命の五大特長

- △經營者ノ確實ナル事
- △責任準備金ノ多キ事
- △住友生命ノ積立金ハ我國テ第一位ヲ占メテ居リマス
- △保費料金ノ低廉ナル事
- △親切ニシテ寛大ナル事
- △配當金ノ多キ事

絶ナル信用——確固タル經營——全クノ契約者本位

平町 材木町
金成泉一郎
(電話七〇四番)

新形洋服が

いろいろな
揃ひました

値段は昨年より二割安
立襟上下 拾圓ヨリ
春廣三組 十三圓五十錢ヨリ
オーバリー 六七圓位ヨリ

其れ變つた新形洋服を澤山取揃ひてあります

十字屋洋服店
平町停車場通り

腕時計

振動の腕時計
不感の腕時計

行 流
側 ム ロク

平町四丁目
會田時計店
電話三六三

永野キヤンデー

ストア

平二丁目
電話七五五

洋生菓子

各種

- △セックリーム
- △アップルパイ
- △ドーナツ
- △スイートポテト

外永野の特製パン
御用命次第早速御届ケ申上マス

看護婦派遣

の求めに應ず

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

本秋流行の粹を網羅せる
一モスリン陳列會
何卒御覽下さい……

三井吳服店
電話三十八番
電話七百五十一番

退痛散

脚氣、淋毒、梅毒、神經痛の
(徳島縣、當金屋の家傳の妙藥)

平町一丁目
大平屋藥店
電話六四二番

總て藥劑は服用せずして其効を論ずるを得ず敢て尋問の服用を奨めて以て其實驗的證明を俟つのみ。

福引大賣出し

十一月十九日より五日間

大英斷景品

一等	掛時計	四二本
二等	支那傘	六四本
三等	洋物	二十本
四等	美術袋物	六十本
五等	セト物	五十本
六等	ハンカチ	五十本
七等	以下一本も空籤なし	五十本

當店は 飽くも親切第一、堅い店を標語といたします

袋物カバン 洋品雜貨


電話一二九番

外科 専門

入院應需

上田外科醫院

平町南町
電話一二九番



君は、いゝ型の洋服を求めたね!!!
誰かへ?
いや君、コレはいや君、「ソレ」例の「ソレ」
正札堂

平町停車場通

平の景氣を支配する

ボーナスの豪勢なる

ソロ／＼噂に花を咲かす
最高は卅割内外
カレンダーもあます處僅に四十枚今年も早々霜月の下旬となつて早くも年の瀬を越す心配苦勞とボーナスの高を樂む喜びと渦を巻はしむる季節となつた、由來炭況の如何に

全運命を 支配する
石城の天地が打續くその境界の不況に崇られ一層不景氣の深刻なるべきは今更云ふまでも無い事であつて茲では時節柄濕つばい處をぬきにして景氣のよいボーナス方面を眺めて見る、そこで今月の末頃から來月の二十日前後へかけ

石城地方 に流れ出す賞與の波は果してどの位あるか問題は地方に於ける賞與の大宗根幹とも見るべき磐城炭礦の配當如何と云ふ事になるのだが之れも噂に聞く處によれば如何に利益薄の今日とは云へ大會社の体面を維持する上からか

無配當で もないらしいからさう悲觀するには當らない額の處はわからぬが三四分の配當を見たら從來の例に徴して大体の推算が出来ぬでもない、次に入山、三井、福島其他別方面では四倉のセメント等々尙照り降りなしの處では爾餘の官術銀行會社も少くない

集めるなれば蓋し莫大な金額に上る事であらう、處でたゞ莫大と云ふだけでは薩張り見當がつかず張合ない事夥しいが石城地方における賞與に就て數字的に判明してゐるのは所謂ブル階級と見るべき所得

納税者の 分が元年度十四萬二千七百三十三圓と計度十一萬千七百十五圓と計上されてあるだけで之に何倍するか大づかみの所謂人數觀念をさへ得られぬ程爾餘大衆の賞與總額に至つては蓋し恐らく測り知れぬものがある、本年の最高は

税務署の 三十割位の處が何れにしても景氣のいゝ話で、これはあるよ

本邦に誇る
樂劇の華!
大人にも子供も面白い
家庭本位の娛樂

平劇場に今晩でお名残りの真剣にして眞面目なる川上樂劇團は、さすが川上貞奴が主宰するものだけに贅を盡したものである、道具衣裳の華美艶麗を極めてあること、最新にして要領を得た折疊式の鮮やかな舞台装置であるが、藝術の上に其の名を語られた岡本歸一氏の

意匠になるものであるから悪かろう筈はない、音楽にしろ舞台にしろ將た又劇にしろ總て立派な統整の下に置かれて居る何分此の一座は帝國劇場に生聲を擧げてから短い才月しか経て居ないので世間一般から好く知られて居らす子供達の爲めのも囀目にも價するものである

慾張り争への中に

自稱法學士の毒爪

マンマと化して 百八十圓を詐取

石城郡内郷村大字白水居住福岡縣八女郡大洲村大字大洲生れ自稱法學士辯護士勳六等高山肇(三)は同村大野久吉が死亡した後同人名義の郵便貯金が六百三十圓ありて長男藤吉及同人の繼母に於てのフデが所得權争をしてゐたのを聞き込みフデに對し甘言を以つて當然繼母の所得權となるものであるから取つてやるからと稱し四百二十圓を取戻し内百八十圓を詐取してゐた事小林駐在巡查に探知され平署に拉致の上嚴重取調中

松ヶ岡公園に屹立せる安藤對馬守の銅像を製作して一躍地方彫塑界に名を馳せたる平町八幡小路の本多朝忠氏は青年彫刻家として將來を囑望されて居たが今秋の帝展に出品せる傑作夜陰が見事入選の榮譽を擔ふに至り氏の藝術は之れを一區畫として一大跳躍を見る事となつた爲め山崎與三郎、



甘藷のパン

先づ材料として甘藷百五十ヌメリケン粉五十ヌ、鹽少々

量、砂糖三十ヌ、玉子一個
焼粉(ベークングパウダー)小匙二杯半、を留意し最初甘藷の皮をむきゆで、裏漉しにこれにメリケン粉を焼粉をふるつて加へ砂糖を加へて混ぜ硬い時は玉子を加へて適當の硬さにこね型に入れてナンピ又はストーヴで焼きます、これも表

收繭尠ない

二つの原因

石城地方桑園と收繭の歩合を詳細に調査

石城郡に於ける桑園、收繭の歩合とを調査して見ると本郡内は桑園が廣汎の割合に收繭量が少く本郡内の平均桑園一反歩につき十八貫七百二十ヌの收繭であつた之は桑園の施肥の關係で發育が不完全なものと桑と蠶との關係を科學的に研究してゐない結果との二つを原因に擧げる事が出来るが本郡内に於て此の桑園と收繭の歩合を比較して見て一番優

- 秀な成績を擧げてゐるのは神谷村で一反歩當り二十七貫二十六ヌの收繭を見せてゐる平均十四貫ヌ以上の收繭量を見た町村は左の如くである
- ▲神谷村二七貫二六ヌ▲
 - ▲平窪村二〇貫二五ヌ▲
 - ▲郷村一六貫七〇ヌ▲
 - ▲夏井村一五貫七八〇ヌ▲
 - ▲泉村一五貫六二八ヌ▲
 - ▲錦村一五貫五九一ヌ▲
 - ▲植田一貫二二ヌ▲
 - ▲上小川村一貫一四貫六二七ヌ▲
 - ▲大浦村

酒井國三郎、白井一郎、諸橋守次、青沼鋒太郎、其他の諸氏發起となり同氏の後援會を組織しその藝術を育くむ事になつた、尙作品頒布の方法左記の如くである

- 一、御入會の御方の御芳名は永く芳名簿に留め左の彫刻品を頒布致します
- 一、床置木彫大黒天(高さ八寸)金卅五圓
- 一、大黒天の圖題は作者の任意とする
- 一、其他の御好みの製作に付きては高さ一尺とし金五十圓とします
- 一、會費は毎月五圓づつ拂込のこと
- 一、作品は入會順に配達すること
- 一、中途退會の方へは既納會費返附せず
- 一、本會事務所は平町八幡小路六十番地佐藤龍太郎氏方に置く

本多氏後援

作品を頒布

- ▲出生
- △新川町三〇 中野康平氏長男舞一
- △柳町九 淺田雷太郎氏二男泰
- △杉平一七 鈴木晴之氏三女千重子
- △柳町一六 若松定吉三女タキ
- ▲婚姻
- △神谷村神谷村木南志賀子之松氏(二八)南町六 大泉チヨ子(三三)
- △材木町六 中山正交(四七)
- ▲死亡
- △柳町一二 加藤辰五郎(三三)

優勝旗

争奪の方法

明日の体育大會

既報平青年團主催の町民体育大會は明廿三日午前九時より警中グラウンドに於て開催される筈であるが優勝旗及び同カップ争奪の採點方法は左記の如く決定した

- 一、優勝旗及びカップは陸上競技(トラック、フット)と武道(剣道、相撲、柔道、大弓)と二つに分け

理想的建築

工費廿六萬圓

敷地決定次第二十六萬圓の巨費を投じて新築される事となつてゐる平郵便局の豫定の局舎は敷地六百三十坪を擁して之に鐵筋コンクリト二階建二棟を建設し二棟を局舎に一棟を電話交換局及局員の娛樂室外交換嬢の作法室其他等、當る筈で該設計は仙台遞信局にて作成

募集

文藝其他投稿を募集します

したものであるが主として震災後模範局舎として建設された東京集郵郵便局の理想的建築模倣したもの地方稀に見る郵便局となる筈である